

令和 7 年度 二学期始業式 20250901

○いよいよ 2 学期が始まります。終業式でも話しましたが、猛暑続きの夏でしたが、充実した夏休みを送ることはできましたか。自分の夏をしっかりと自ら声（こえ）に出して語れるよう責任持って取り組めたでしょうか。

○今年は、戦後 80 年という節目の夏でした。テレビ、新聞、ネットなど特集を組んで多くの報道などがされていました。戦争を知らない世代が、日本の大半を占めるという国になったということで、「国が、国が異なれば、人を殺すことを容認するという戦争を、その悲惨さを肌で感じる」とが薄れ、「国のために辛いことを乗り越えて、国のために活躍した」という美学だけに惹かれていくことにならないよう、しっかり語り継ぐことの大切さが語られていました。皆さんも十分知っているように、世界を見れば、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区での無差別掃討作戦など、軍事力を使った国の支配は、決してなくなっただけではありません。私たちは、自分たちの社会の日常を平和だと感じるのであれば、その平和を守る意識も強く持たなければならないと強く感じた夏でした。

○富士宮北高校は、今年、創立 88 年目を迎えています。つまり、生まれは、戦前、戦中です。皆さんも知っていると思いますが、中央道から校舎に入った右側、富士山に向かって第一体育館の左側に、ひっそりと「ある遺構」があります

ね。戦時中には、今の皆さん、高校生に対して、兵士になる訓練をするための場所として、使われていたことがわかる、「国威発揚（こくいはつよう）」と書かれたものが残っています。また、陸軍大將が送ったという書の跡まで残っています。国威発揚とは、国家がその威光（国としての力や名誉）を他国に対して優位性を示す行為や政策を象徴する言葉です。軍事パレードなどがその良い例ですが、若者たちを兵士として育てることで、他国にその強さをアピールする場として、学校などでの訓練を見せつけていたのです。私は、そんなことは絶対にあってはならないと強く思うために見にいきます。伝統校では、このような石碑の場所に「国旗掲揚」をするポールを立てておき、日本国旗を見上げながら、国のために頑張ろうと気持ち新たに作る場所となっていました。皆さんも、本校に通っている間に一度は、しっかりと見てほしい。そして、そこで、平和を守ろう、私たちがこれからは、平和を守って、自分の子どもたちに渡すのだと思ってほしい場所です。

○戻りますが、戦後８０年の取組で、８月９日長崎では、歌手の福山雅治さんが、市民と共に「クスノキ」を合唱していました。歌もそうですが、クスノキの大きさ、被爆の木と思えない立派な様子に感動しました。あるテレビ番組で、福山さんの平和を思う歌が広がり、長崎のクスノキを平和のシンボルとして、クスノキプロジェクトが全国に広がって展開されているということを知りました。核爆弾の炎にも負けず、根っこが生き続けたクスノキは、戦後の日本を見守り

続け、ずっと、わたしたちに寄り添い続けてくれたその樹木の強さと優しさに
心うたれるものがありました。世界の平和首長会議では、広島「アオギリ」と
長崎「クスノキ」を平和の象徴として、その苗木を2世として植樹していく
取組があることも知りました。ある中学校では、生徒たちが、校庭で育てて、平
和を考え続けたいと、その苗木をもらってきて、植樹したという取り組みも知
りました。私たちの戦後は、皆さんのような若者のアイディアでどんどん良い
ものに変えていくこともできるのです。皆さんも平和を考えるきっかけを、い
ろいろなチャンネルで得て、自らその思いを実現できるよう行動してほしいと
思います。

○さて、いよいよ2学期を迎えます。この夏の満足度はどうですか。私自身振り
返っても、満足には程遠いので、いくつか後悔を残して、今日を迎えています。

ただ、この後悔は、反省と次へのやる気を生み出しますので、決して無駄なことではあり
ません。この夏休み、3年生は、いよいよ進路実現におけ、動き出しました。就職を希望す
る生徒は、企業見学をして、自らのいきたいキャリアを考えました。進学を希望する生徒
は、補習からはじまり、きっと受験勉強をはじめたことでしょう。ここからは、本当に自分自
身と向き合うことも多くなると思いますし、先生方にも相談しながら、自らの信じる道を進
んでください。2年生は、先ほどの平和に関することではないですが、修学旅行がいよいよ
です。中堅学年として、部活動でも主役になっていくでしょう。最も充実した時期を迎
えられるよう、準備をしてください。そして、1年生は、学校生活にも慣れて、視野も広がっ

てくることでしょう。思い切っていましたかできないことに取り組んでもらいたいと思います。

そして、この2学期のスタートに向け、2つお伝えしておきたいと思います。

○1つめ。皆さん、パラリンピックを知っていますか？県内でも水泳の鈴木選手など金メダルをとっていますので、知っていると思います。では、デフリンピックを知っていますか？

聴覚障害者の国際スポーツ大会です。このデフリンピックが、「東京2025デフリンピック」が11月15日開幕します。日本では、初開催となるそうです。

静岡県内でも自転車2競技を伊豆市で実施します。デフリンピックは、聴力レベルが55デシベル（話声と同程度）以上の選手が出場するそうです。身体、視覚、知的障害がある選手が対象のパラリンピックとは別の道を歩んできており、歴史的には、このデフリンピックのほうが伝統はあるようです。大会では、補聴器を外し、全員が公平に聞こえない立場で参加し、音に頼らない戦術やコミュニケーションによって競い合うもので、聞こえない不便さはあっても、それ以外はなんでもできるし、楽しむことができる当事者を知ってほしいと案内がされています。

先日、先生方は、共生・共育の研修会をしました。その場で、「多様性を受け入れる」という言葉には、受け入れるという受動的な気持ちが入っており、あくまで、わたしたちは、様々な個性を持つ、多様性の一部であるという、マインドを持とうと講評がありました。みなさんは、どんな思いを持ちますか。（間をおく）

なお、デフリンピックでは、応援としての、「行け!!」は、「拍手（両手を顔の横にあげて手首をひらひらさせる）をした後に、両手をパーにして前に押し出す」そうです。ふと思ったひともいるかもしれませんが、パラとデフなぜ一緒にやらないのか。気になった人は、探究

してみてください。

○2つ目。私自身、この夏、積極的に「生成 AI とどう付き合うか」に関して学び始めました。生成 AI に関しては、人それぞれイメージが異なり、人によっては、情報技術、また別の人は、書類作成、話し相手、仕組み、犯罪・・・どう見ているのかは千差万別です。ときどき、俺はこんな技術知っているぜと、マウントをとってくる人もいます。

『2035年の人間の条件』暦本純一 落合陽一著で、暦本氏が、世界で人間に必要とされる能力は何か?という問いに対して、「「必要」という概念が壊れるんじゃないでしょうか?例えば、プロの絵描きになろうと思ったら、今は絵を描く才能が必要とされますよね。でも、それを AI がやるようになると、そもそもその人が絵を描く「必要」があるのかどうかもわからないじゃないですか」「だから、考えるべきは「自分に何が必要か」ではなく、どちらかというと「自分は何がやりたいのか」だと思います」と述べています。

私や、高校生の皆さんには、「自分ごと」にしにくく感じるかもしれませんが、今、必要なのは、自分と向き合い、自分の気になること、好きなこと、こだわりたいことを自主的に選択していく練習、トレーニングだと思います。このことを、生成 AI に触れながら思い出し、大人も含めて、今までの当たり前を問い直す作業をしてほしいと思います。(間をおく)

そして、この9月はじめは、夏の間のお休みから、集団生活に戻りますので、気持ちがびっくりしてしまう時期です。いきなり、トップスピードにはいります。生成AIは、「学校の9月は疲れるけどどうしたらよい?」と聞くと、「先生や生徒にとって、9月は本当に疲れやすい

時期ですね。一気に学校生活が再開し、行事や授業も重なって負担が大きくなるからです。この時期のポイントは、「9月は疲れやすい」と割り切って、無理に完璧を求めないことです。先生自身がリズムを整えながら、生徒には、セルフマネジメントを伝える時期を感じるとよいでしょう。」と回答をくれました。

生成AIは、相談相手にもなってくれる時代です。これから、先生、生徒のみなさんは、大事な2学期を迎えます。ぜひ、忙しいときでも、視野を大きくもって、今まではと異なる緩やかな広がりを受け入れていける時間としてください。

以上で、2学期始業式の話が終わります。